

国鉄・三里塚・反トマホークの 結合で中曽根打倒を！

「6・15集会」はこうした緊迫した状況の中で、二八三〇名の労働者、農民、学生が参加して開かれました。

米原潜「タニー」横須賀入港阻止の緊急行動を闘った学生の報告をはじめ、全島が巨大な核基地として強化されている沖繩、自衛隊の実戦演習がより激しさを増す北富士など、中曽根の軍事大国化・改憲攻撃と激烈に闘いぬく各戦線の仲間からの闘争報告と、決意表明が行われました。

とりわけ、今秋二期着工にむけた政府、公団、機動隊の、脱路派をも利用した熾烈な攻撃と対峙し決戦体制に突入している三里塚からは、北原事務局長が起ち、「昨日、横須賀にタニーが入港したようにレーガンは核配備は中曽根と連携をとりながら行われている。今日の集会はこうした戦争への道を阻むものとしてある。三里塚は反戦・反核の砦であり、全国住民闘争の拠点として闘いぬい



全国統一行動

6.15

日刊 動労千葉

84. 6. 19

No. 1669

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

「6・15」集会は二八三〇名

六月十五日、日比谷野外音楽堂において「トマホーク配備阻止・安粉砕・三里塚二期決戦勝利・関西新空港粉砕・中曽根内閣打倒 6・15中央総決起集会」が開かれ、「核・トマホーク配備」を受け入れ「核兵器の使用は核保有国の勝手」と公言して一気に核武装・侵略戦争への道を突き進む反動中曽根内閣を三里塚闘争の勝利によって打倒しぬくことを確認し、抗議の国会デモをうちぬきました。

決戦体制で必ず勝つ
—三里塚

であり、なんとしても勝たなくてはならない」との決意を表明しました。

三里塚勢力で中曽根打倒を—中野委員長

また、「一時帰休制」導入＝生首切りをはじめ未曾有の国鉄労働運動破壊攻撃の激化の中で、二一〇名の部隊で参加した動労千葉を代表し、中野委員長が断固たる決意を明らかにしました。

中野委員長は「当局は一時帰休、出向、退職勧奨を発表したがこれは生首切りの宣言であり、国鉄労働運動は決戦局面にたち至った。労働運動が産報化の道をひた走っている中で、この攻防は階級闘争総体の問題として動労千葉が総力で闘わねばならない。今、三里塚は決戦状況を迎えているそれは成田用水の攻防に示されているように、脱路派を利用し二期を強行しようとしている。国鉄・三里塚・反トマホークを結合させ、ここに集まった人々の力で中曽根を打たねばならない。このことを確認し、6・24明治公園に総決起しよう」と訴えました。

一切のカギは三里塚闘争にある—高島氏

中野委員長の決意をうけ、東京実行委員会世話人の高島喜久男氏から集会のまとめが提起されました。

高島氏の「二〇年経って安保は性質を変えた。今日、中曽根はヨーロッパの核配備にまで口を出すに至っている。今日から八〇年代後半の安保を闘わねばならない。今、われわれに問われていることは、三里塚を闘うかどうかである。今日、この場で三里塚を闘うことを決意しよう」との激烈な訴えに、全参加者は圧倒的な拍手で応えました。集会は闘争宣言を採択し、権力の弾圧をはねのけ、国会にむけた断固たる抗議のデモを闘いぬき、中曽根打倒の決意を示しました。

雨のため延期となった
野球大会（準決勝・決勝戦）を6月25日（土）午後5時から、更科球場で行います。

よ！を粉砕せよ！組織破壊攻撃で組織を強固な団結・家族組合員